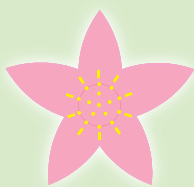


山梨県立ろう学校PTA新聞



ふ え ぶ き

No.
30山梨県山梨市大野1009
TEL 0553-22-1378
FAX 0553-22-6419

令和7年3月発行



ろう学校・PTAに感謝

PTA会長 小倉 和美

ろう学校は支援教育部から16年間お世話になりました。入学当時は全く想像できなかった成長した息子の姿を見ることができました。

先生方のお力は勿論、PTAの活動を通して私自身も学ばせていただいた事が多く、どんな活動も巡り巡って子どもの成長に繋がったのではないかと思います。

近年、PTA活動の負担や存在意義について様々な意

見があります。当PTAでは会則の見直しを行い、役員数削減などに取り組みました。このような改革がより柔軟で参加しやすいPTA運営に繋がるといいと思います。これからも皆様が気軽に意見を出せる場を作りつつ、次の世代がより楽しく活動できるようなPTAになることを願っております。

皆様のご健康とご多幸をお祈りし、PTA活動へのご協力に改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。これからもPTAの発展を応援しています。



地域にある支援学校への道

校長 中村 知佳

本校は桃源郷と称される景勝の地にあり、自然豊かな山梨市に位置する創立102年を迎えた歴史ある特別支援学校です。そして、教育活動に協力を惜しまないPTAや保護者の皆様、由緒ある本校に誇りをもって学校運営に尽力している卒業生や、子どもたちのために努力を惜しまない教職員がろう学校の教育活動を日々展開しています。

その中でろう学校は“地域にある特別支援学校”であり、地域連携は切っても切れないものとなっています。一旦コロナ禍で途絶えたかに見えた連携や関係も、今年度大幅に戻ってきており、地域の保育園や小学校等の各種学校、手話サークル、自治会等との関係や活動もまた新たな局面を迎えています。私は今“地域”と申しましたが、“地域”と一言で申しても、本校には2つの地域があると考えています。

一つは“山梨市大野地区”という狭義の地域、もう一つは“山梨県全域”という広義の地域です。こ

の両者ともPTAの皆様が深く関わってくださっています。“狭義の地域”としては、例えば晩秋に開催された山梨小学校との持久走大会や山梨高校との梨窓WALK等に関わる運営協力があります。他校の見知らぬ子どもたちではあっても、沿道の通行する方を始め、保護者、お手伝いくださった本校のPTA役員の方も、みんなで子どもたちの頑張る姿にエールを送り、そのエールで子どもたちは皆目標とする距離を完走することができました。本校の幼児児童生徒も地域の園や学校の子どもたちとの、聴覚の課題を超えた交流で、更にコミュニケーションの幅を広げ、成功体験を積み重ねています。

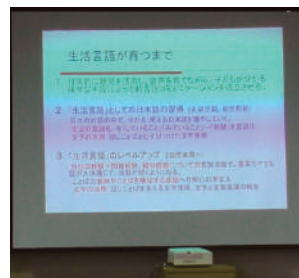
また、広義の地域としては山梨フードドライブへの協力、東京の国立青少年オリンピックセンターで開催された家庭教育を考える部会2024年への参加（小倉会長参加）等が挙げられます。狭義でも広義でも地域に根ざした支援学校として更に進化していく為にPTAの皆様方と共に歩んでいきたいと思っています。

PTA研修会

鈴木 亜美

今年度のPTA研修会では、2つの講演が行われました。1回目は、筑波大学名誉教授の齋藤佐和先生が聴覚障がい児の日本語習得について、言語発達における家庭の役割や、子どもの成長に応じた親の関わり方の変化についてお話くださいました。2回目は、聴覚障がい当事者でもある志摩村早紀先生

が、自分の聞こえを理解し、困難を周囲に伝えることの重要性などをお話くださいました。子どもたちの支援方法について新たな理解を深める貴重な時間となりました。



幼稚部

1年を振り返って

高木 葉月

幼稚部2年生も終わろうとしています。娘は1年生の途中で入学したので、ろう学校での生活は丸1年と少しです。ろう学校に通い始めて一番実感したのは、経験したこと、見たこと感じたことが言葉になっていくということです。難聴の発覚が3歳過ぎてからととても遅かった娘は、入学前はほとんど発語はなく、言葉の理解もあまりできていない状態でした。泣くことと、少しの身振りでしか自分の感情を表せなかった娘が、ろう学校に入学して大きく成長しました。1年を通して身の回りのこと、季節のこと、さまざまな行事など、あらゆる経験をさせてもらえたことでその一つ一つを吸収し、理解してたくさんの言葉になっていきました。語彙も増え、手話も覚えて先生や友達

とコミュニケーションがとれるようになり、娘本人も他者と関わることの楽しさを感じているように思います。娘がどんどんお喋りになっていくのがとても嬉しいです。同時に、娘の伝えたいという気持ちを無駄にしないために、親である私自身も受け取る力を高めていかないと強くなります。これからも学校での参観や日々の生活を通して、沢山の経験を娘と共有していきたいです。



成長した1年間

小学部6年 重村 花凜

児童会長としての1年間をふり返って一番成長したことは、気持ちを切りかえる力がついたことです。今年度はたくさんの行事の中で、小学部のリーダーとしてみんなをまとめる仕事をしました。昨年度の児童会長のわたなべ心くんのように、しっかり周りを見て行動したいと思い、下級生の様子を確認する意識を高めました。リーダーになるのは初めてだったので緊張しましたが、下級生に注目されているので、気持ちを切りかえて堂々としよう意識しました。私にとって大事なことは、気持ちをなるべく早く切りかえることです。人前であいさつや発表をしたり、会の進行をしたりすると

きは、正直とても緊張しました。でも、緊張して自分の役割をしっかりとできない姿はカッコ悪いと思いました。だから、下級生のお手本とし



てカッコいい姿を見せるために、気持ちを切りかえて取り組みました。何度も経験することで慣れていき、少しずつ落ち着いて話せるようになりました。これからも大変なことがあっても、この1年間で身につけた気持ちを切りかえる力を活かして、堂々と挑戦したいと思います。

小学部

寄宿舎

寄宿舎全員が仲間

主任寄宿舎指導員 丸山 貴子

寄宿舎には、宿泊、放課後、登校前など様々な利用形態の舎生がいます。宿泊している高等部生から、放課後利用の幼稚部小学部生を楽しませてあげようという提案がありました。いつもどんな遊びをしているのかな、好きな遊びやキャラクターは何だろうとリサーチをし、紙飛行機飛ばしと手作りパズルに決定。それぞれの得意なことを発揮して事前準備を行いました。

当日は幼稚部小学部生共に大はしゃぎ。それ以降、帰ってくると「お兄ちゃんいる？」が合言葉になるほど、寄宿舎の仲間としての意識も芽生えました。「楽しんでもらえてよかった」と高等部生たちもハイタッチ。舎生全員の心が一つにまとまった出来事になりました。



修学旅行の思い出

中学部 2年 徳永 安奈

5月15日から3日間、京都・大阪方面へ修学旅行に行きました。1日目は新幹線に乗り、大阪へ行きました。お昼に、大阪名物のお好み焼きを食べた後、大阪城へ行きました。大阪城の一番上まで登ると、景色がとても素敵でした。大阪城はビルや木々に囲まれているみたいでした。次に水上バスアクアライナーに乗りました。まるで泳いでいるみたいでした。2日目は京都国際マンガミュージアムへ行きました。沢山の漫画があり心に残りました。次に京都太秦映画村へ行きました。色々なオープンセットがあり、吉川教頭先生と一緒にコントを撮影し、一生忘れられない思い出になりました。3日目は、二条城へ行きました。虎や松などの障壁画が

中学部

あり、とても美しかったです。

修学旅行で一番思い出に残っている場所は、京都国際マンガミュージアムです。沢山の漫画があり、私は漫画家になってみたいと思いました。3日間、色々大変なこともありましたが、修学旅行に参加できて、良い思い出をつくることができ、良かったです。修学旅行に参加できて、嬉しかったです。



高等部

この先へ

高等部 3年 小倉 大知

今年も大きな行事がたくさんありました。その中で印象に残っていることは2つあります。1つ目は笛吹祭です。ダンスでは、最初はなかなかうまくいきませんでした。練習を重ねるうちにだんだんと合ってきて、お客さんが楽しそうに手をたたいてくれたことがとても嬉しかったです。劇



では、高等部は現場実習のことを伝えました。手話を大きく使って表現することができました。セリフを覚え、

スラスラと話せることができ、良かったです。みんなの前で発表するのは緊張しましたが、堂々と発表することができました。笑顔で発表できたことがいい思い出として心に残っています。2つ目は梨窓ウォークです。山梨高校のみんなと一緒に走りました。ろう学校高等部も全員が20kmに挑みました。結果、全員が完走という目標を達成することができました。私は2回目の完走でした。20km走りきることは、とても大変でしたが最後まで諦めず走り切ったことは大きな自信につながりました。私は今年度で、14年間のろう学校生活が終わります。この14年間でたくさんの経験をすることができました。この経験をこの先の未来につなげていきたいです。卒業してからも、ろう学校で学んだことを活かし、社会人として仕事を一生懸命頑張りたいと思います。



おめでとうございます

細川かおり前PTA副会長が「聴覚障害児を育てたお母さんや家族をたたえる会」より表彰されました。長きに亘り、聴覚障害のお子様の子育てに邁進され、保護者の方々と共にPTAでも活動してこられました。その努力と功績を称えての表彰となります。おめでとうございます。

編集後記

発行に際し、先生方、保護者の皆様にご協力いただき、感謝しております。ありがとうございます。楽しんでお読みください。

PTA 理事

下村 翠・重村 春香
徳永 浩美・望月 佐和

幼稚園 成長を感じた笛吹祭

下村 翠

幼稚園に入学して3年、2度目の笛吹祭でした。初めての笛吹祭ではまだ台詞を言う事も難しかった娘ですが、今年は「そんごく」の三蔵法師をやることになり台詞も多くなりました。先生方が色々工夫してくださり、台詞も覚えやすいように書いてもらったり、衣装も体に合わせて何度も調整してもらいました。本番では自信を持って台詞を言う事もでき最後まで演

じ切る事が出来ました。練習の成果を発揮できたこと、これからの自信に繋がっていく事と思います。先生方には感謝しております。ありがとうございます。

**小学部 感慨深い笛吹祭**

重村 春香

10年前、もうすぐ2才になる娘を抱きかかえて見に行った初めての笛吹祭。小学部6年生の時にはどうなっているのかな…とその時ははるか遠い未来の事のように思っていました。色々な経験をして迎えた小学部最後の年、王さまの衣装を着て舞台に立って堂々と演じている娘を見て、“成長”と“達成”を実感したと共にこれまで支えて下さった人達への感謝の気持ちが沸き上がりました。小学部みんなであつくりあげた「王さまと9人の兄弟」は、娘と私にとって一生の思い出になりました。先生方、お友達本当にありがとうございました。



第33回

笛吹祭

笑顔ががやけ!!
最高の仲間と!!**中学部 仲間との絆**

徳永 浩美

中学部になり初めての笛吹祭。夏休み中もタブレットを使い打ち合わせに力を入れたり、毎日セリフの練習をしていたので本番をとっても楽しみにしていました。発表の内容もレベルが上がり中学部→高等部→社会人へと成長していく中で感じていく言葉の壁も気持ちが細かく表現されて思わず見入ってしまいました。聞こえる聴こえないは関係なく自分の気持ちを伝える事は大変です。しかし伝える事を諦めないで、自分らしさを見つけてこれからも力強く成長して欲しいと思います。指導して下さいました先生方にも感謝いたします。

**高等部 初めてと最後の笛吹祭**

望月 佐和

息子にとって最後の、そして生徒会役員として初めての笛吹祭でした。オープニングでの法被姿でドリフの曲に合わせて出てきた時は緊張しながらも楽しそうな笑顔にこちらも自然と笑みがこぼれ「これから楽しい笛吹祭が始まるんだ!!」という素晴らしい始まりでした。学部の発表では各学部も活き活きと表現している姿に成長や仲間との絆を感じとても楽しく、そして感動しました。仲間と先生方と協力して工夫し、全学部のみんなと大成功させた笛吹祭は息子にとって最高の思い出になったと思います。ありがとうございました。

**手話講習会**

木下 麻衣

今年度は11名の保護者が、初級と中級に分かれ受講しました。手話を学んでコミュニケーションがとれるようになっただけでなく、植田先生の体験談や聞こえない人が困ること、様々な情報も提供していただき、貴重な時間を過ごすことができました。「手話は言語である」という認識が深まりつつある中、さらに理解を深められるよう学び続けていきたいと思っています。

**フードドライブ**

稲葉真里奈

今年度もフードドライブにご協力を頂き有難う御座いました。今年で7年目となる活動ですが、沢山の食品が集まりました。一人一人が食品ロス削減を心がけることで、必要としているご家庭への支援・笑顔につながります。これからも微力ではありますが、長くこの活動を続けていけたらと思います。今後ともご支援ご協力を宜しくお願い致します。

